

第2編 各教科及び特別活動における評価規準の作成，評価方法の工夫改善

第1章 国語

第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨等

1 教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力及び言語感覚を養い，国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
国語に対する関心を持ち，国語を尊重し，進んで表現したり理解したりするとともに，伝え合おうとする。	自分の考えを豊かにして，相手や目的に応じ，筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えを豊かにして，相手や目的に応じ，筋道を立てて文章に書く。	目的に応じて読み取ったり読書に親しんだりする。	表現及び理解の能力の基礎となる発音，文字，語句，文・文章等について理解し，習熟している。書写では，文字を正しく整えて書く。

* 観点別学習状況の評価の観点である「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点について，国語科では，新学習指導要領における目標，内容の趣旨などを考慮し，「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の上記5観点として設定した。

3 内容のまとめりごとの評価規準の設定

国語科においては，学習指導要領の内容の「A話すこと・聞くこと」，「B書くこと」，「C読むこと」を内容のまとめりとして，これらごとに評価規準を作成した。

〔言語事項〕については，「A話すこと・聞くこと」，「B書くこと」，「C読むこと」の各内容のまとめりの中に関連する事項を含めた。

第2 内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

第1学年及び第2学年

1 学年目標

- (1) 相手に応じ，経験した事などについて，事柄の順序を考えながら話すことや大事な事を落とさないように聞くことができるようにするとともに，話し合おうとする態度を育てる。
- (2) 経験した事や想像した事などについて，順序が分かるように，語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに，楽しんで表現しようとする態度を育てる。
- (3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに，楽しんで読書しようとする態度を育てる。

2 第1学年及び第2学年の評価の観点の趣旨

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
国語に対する関心を持ち，話し合ったり，楽しく書いたり，楽しんで読書したりしようとする。	相手に応じ，経験した事などについて，事柄の順序を考えながら話したり，大事な事を落とさないで聞いたりする。	経験した事や想像した事などについて，順序が分かるように，語や文の続き方に注意して文や文章を書く。	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読む。	音声，文字，語句，文や文章，言葉遣いなどの国語についての基礎的な事項について理解している。書写では，文字の形，筆順，点画の接し方，交わり方などを理解して文字を正しく書く。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1) 「A 話すこと・聞くこと」

【学習指導要領の内容】

(1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため，次の事項について指導する。

- ア 知らせたい事を選び，事柄の順序を考えながら，相手に分かるように話すこと。
- イ 大事な事を落とさないようにしながら，興味をもって聞くこと。
- ウ 身近な事柄について，話題に沿って，話し合うこと。
 - ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

【「A 話すこと・聞くこと」の評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に応じ，経験した事などについて，事柄の順序を考えながら話したり，大事な事を落とさないように聞いたりするとともに，話題からそれないように話し合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知らせたい事を選び，事柄の順序を考えながら，相手に分かるように話している。 ・ 大事な事を落とさないようにしながら，興味をもって聞いている。 ・ 身近な事柄について，話題に沿って，話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢，口形などに注意して，はっきりした発音で話している。 ・ 文の中における主語と述語との関係に注意して話したり聞いたりしている。 ・ 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話している。

【「A 話すこと・聞くこと」の評価規準の具体例】

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近に経験した事から話題を選んで話そうとしている。 ・ 話題からそれないように相手に聞き直したり，尋ねたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順序を考えながら，物の作り方や作業の仕方，遊び方などの様子を話している。 ・ 読んだ本の中から，おもしろかったところや楽しかったところを先生や友達などに紹介している。 ・ 話題をとらえながら相手の話を最後まで聞いている。 ・ 友達の話聞いて，分からないことを尋ねている。 ・ 交互に話し手になったり，聞き手になったりして話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の選んだ本のおもしろさについてはっきりした発音で話している。 ・ お互いの声の大きさや速さなどのよいところを見つけながら話を聞いている。 ・ 主述の整った文型で文末をはっきりさせて話している。 ・ 先生や家の人などに対して，丁寧な言葉遣いで話している。

(2) 「B 書くこと」

【学習指導要領の内容】

(1) 書くこと的能力を育てるため，次の事項について指導する。

- ア 相手や目的を考えながら，書くこと。
- イ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。
- ウ 自分の考えが明確になるように，簡単な組立てを考えること。
- エ 事柄の順序を考えながら，語と語や文と文との続き方に注意して書くこと。
- オ 文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いなどに注意すること。
 - ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

【「B 書くこと」の評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手や目的を考え 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手や目的を考えながら，書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平仮名を正しく書いたり，片仮名で書

<p>ながら、事柄を集めたり簡単な組立てを考えたりして文章を書き、読み直そうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書こうとする題材に必要な事柄を集めている。 ・自分の考えが明確になるように簡単な組立てを考えている。 ・事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書いている。 ・文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに注意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・く語を文や文章の中で正しく使ったりしている。 ・第1学年に担当されている漢字を漸次書いている。(第1学年) ・第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に担当されている漢字を漸次書いている。(第2学年) ・長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」「へ」「を」を文の中で正しく使っている。 ・句読点の打ち方やかぎ(「 」)の使い方を理解して文章の中で使っている。 ・文の中における主語と述語との関係に注意して書いている。 ・姿勢や用具の持ち方を正しくして丁寧に書いている。 ・点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。
--	---	--

【「B 書くこと」の評価規準の具体例】

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な相手や目的を意識して必要な事柄を集めたり、順序を考えて書こうとしている。 ・それぞれの文章のよさに気付きながら、書くことを楽しもうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近で具体的な相手や目的を明確に意識しながら行事の紹介状などを書いている。 ・身近な相手などに知らせたい事を、先生や身近な人などに尋ねて集めている。 ・家の人にあてた手紙などを始めと終わりなどを意識しながら書いている。 ・観察したことを相手に伝えるために、時間の移り変わりや様子の変化などの順序に気を付けて書いている。 ・書いた文を声に出して読み返している。 ・自分が書いた文章や友達の書いた文章に目を向けてよいところを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・擬声語や擬態語、外国の地名や人名、外来語など、片仮名で書く語が一定の種類に限定されていることを理解している。 ・第1学年に担当されている漢字を漸次書いている。(第1学年) ・第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に担当されている漢字を漸次書いている。(第2学年) ・語や文の中で長音、拗音、促音、撥音などを用いている。 ・文末に句点を打っている。 ・会話文に用いるなど、かぎ(「 」)の使い方を理解し、自分の書く文章の中で正しく使っている。 ・主語と述語をきちんと照応させた文を書いている。 ・姿勢や用具の持ち方を正しくして丁寧に書いている。 ・点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。

(3) 「C 読むこと」

【学習指導要領の内容】

(1) 読むこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

- ア 易しい読み物に興味をもち、読むこと。
- イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
- ウ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。
- エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。
 - ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

【「C 読むこと」の評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 易しい読み物の内容の大体をとらえたり，自分なりに想像を膨らませたり，声に出したりしながら楽しんで読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら気に入った易しい読み物を読んでいる。 ・ 時間や事柄などの順序に着目し，内容の大体を読んでいる。 ・ 場面や事柄のまとまりなどについて，叙述に即して自分なりに想像を広げながら読んでいる。 ・ 声に出して読んで，語や文としてのまとまりや内容，響きなどについて感じたり考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ はっきりした発音で読んでいる。 ・ 平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。 ・ 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 ・ 文の中における主語と述語との関係を理解している。 ・ 言葉遣いに気を付けて読むとともに，敬体で書かれた文章などの文体を意識している。

【「C 読むこと」の評価規準の具体例】

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み聞かせや教科書教材の読みをきっかけにして，読む楽しさやおもしろさを味わい，自分が楽しんで読書しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み聞かせを聞いたり紹介されたりした易しい読み物を楽しんで読んでいる。 ・ 入門期では，挿絵や写真などを見て想像を膨らませたり，順序を追って読んだりしている。 ・ 物語の場面が時間の順序によってつながっていることに気付き，内容の大体を読んでいる。 ・ あらすじを押さえながら場面を想像豊かに思い描いて読んでいる。 ・ 説明されている事柄を叙述と結び付けて想像しながら読んでいる。 ・ 場面の様子について読み取ったことを理由を述べながら話し合い，想像豊かに読んでいる。 ・ はっきりとした発音で文章を読んでいる。 ・ 意味内容が明瞭になるように，ひとまとまりの語や文として読んでいる。 ・ 言葉のくり返しやリズムなどを楽しみながら声に出して読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本や簡単な物語を読むときなど，平仮名や片仮名を正しく，はっきりした発音で読んでいる。 ・ 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 ・ 文章を読むとき，これまでに学習した漢字を読み，文脈の中での意味をとらえている。 ・ ひとまとまりの文として読むとき，主語と述語との関係を意識して読んでいる。 ・ 読み物教材において，敬体で書かれた文章などの文体を意識している。

第3学年及び第4学年

1 学年目標

- (1) 相手や目的に応じ，調べた事などについて，筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに，進んで話し合おうとする態度を育てる。
- (2) 相手や目的に応じ，調べた事などが伝わるように，段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに，適切に表現しようとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ，内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに，幅広く読書しようとする態度を育てる。

2 第3学年及び第4学年の評価の観点の趣旨

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能

国語に対する関心をもち、進んで話し合ったり、適切に書いたり、読書の範囲を広げたりしようとする。	相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたりする。	相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書く。	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む。	音声、文字、語句、文や文章、言葉遣いなどの国語についての基礎的な事項について理解している。書写では、文字の大きさ、配列、毛筆では、点画の接し方、交わり方、方向、文字の組立て方などを理解して文字を正しく書く。
---	--	---	--------------------------------------	---

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1) 「A 話すこと・聞くこと」

【学習指導要領の内容】

(1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

イ 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること。

ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと。

- ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

【「A 話すこと・聞くこと」の評価規準】

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話そうとしたり、話の中心に気を付けて聞こうとしたり、進んで話し合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話している。 ・ 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめている。 ・ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話している。 ・ 話したり聞いたりするために必要な語句を増している。 ・ 修飾と被修飾との関係など、文の構成に気を付けて話を聞いている。 ・ 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って話したり、それらに注意して聞いたりしている。 ・ 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話している。

【「A 話すこと・聞くこと」の評価規準の具体例】

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 最も伝えたい中心をどこに位置付けるか考えて話そうとしている。 ・ 一番聞きたいことについて質問しようとしている。 ・ グループや学級などの集団において、話し合いに積極的に参加しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭や学校、地域社会における日常生活の中で経験したことを話題にスピーチをしている。 ・ 題を付けてからスピーチをしようとしている。 ・ 相手や目的に応じて、まとまりをもった話の構成で説明している。 ・ 見学やインタビューのときに、話の要点などをメモにとりながら聞いている。 ・ 自分の経験や考えと比べて聞き、自分の意見や感想を話している。 ・ メモした要点をもとに質問をしたり意見を言ったりしている。 ・ 発言の仕方など話し合いのルールに従 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話す集団の大きさを考えながら、声の大きさや速さについて考えて話している。 ・ 主語や述語、修飾語になる語句を正しく用いながら話している。 ・ 話し合いに必要な語句や事柄について、辞書を利用して調べている。 ・ 話の筋道を立てるために、指示語や接続語を使っている。 ・ 多くの人の前で話すときに「です」「ます」の文末で話している。 ・ 調べたことを報告するときに丁寧な言葉遣いで話している。

って話したり聞いたりしている。

(2) 「B書くこと」

【学習指導要領の内容】

(1) 書くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

- ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。
- イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。
- ウ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること。
- エ 書こうとする事柄の中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書くこと。
- オ 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりすること。
 - ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

【「B書くこと」の評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手や目的に応じて、事柄の選択や段落相互の関係を工夫したり、よいところを見付けたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手や目的に応じて、適切に書いている。 ・ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりしている。 ・ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書いている。 ・ 書こうとする事柄の中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書いている。 ・ 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。 ・ 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもっている。 ・ 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(4年) ・ 送り仮名に注意して書いている。 ・ 句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。 ・ 表現するために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。 ・ 文章全体における段落の役割を理解している。 ・ 文と文との意味のつながりを考えなが、指示語や接続語を使っている。 ・ 文章の敬体と常体に注意して書いている。 ・ 文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書いている。 ・ 文字の大きさや配列に注意して書いている。 ・ 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いている。

【「B書くこと」の評価規準の具体例】

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい自分の思いや願いを膨らませなが相手や目的に応じて文章となるよう工夫しようとしている。 ・ 書く目的に照らして適切な表現となっているかを確か 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手や目的を意識して手紙を書いている。 ・ 集めた情報や調べた結果について友達に説明するなどの目的に照らして必要のある事柄かどうかを考えている。 ・ 継続的に記録していた事柄ごとのまとまりを意識し、相手に伝えたい事柄の中心を明確にする構成を工夫している。 ・ 疑問に思ったことなどについて調べた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。 ・ 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。(4年) ・ 送り仮名に注意して書いている。 ・ 段落の始めや会話の部分などを改行して書いている。

<p>めたり、さらに工夫したりしようとしている。</p>	<p>事やそれによって深まった自分の考えなどが明確になるよう、文脈の通った文章を書いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書くことのそれぞれの過程で自らのよさに気付いている。 ・自分の書いた文章を読み返して間違いなどを正している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解している。 ・意味のひとまとまりとしての段落が、さらに文章全体の意味を組立てているという役割を理解している。 ・文脈に沿って指示語や接続語を使っている。 ・相手や目的を押さえ、常体と敬体を区別して書いている。 ・文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書いている。 ・文字の大きさや配列に注意して書いている。 ・毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いている。
------------------------------	---	--

(3) 「C読むこと」

【学習指導要領の内容】

(1) 読むこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア いろいろな読み物に興味をもち、読むこと。

イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。

ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。

エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。

カ 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。

- ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

【「C読むこと」の評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広くいろいろな読み物に興味をもち、一人一人の考えや感じ方の違いに気付いて読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな分野の読み物を、自ら進んで読んでいる。 ・ 自分の目的に応じて、段落相互の関係を押さえ、中心となる語や文をとらえて文章の内容を正しく読んでいる。 ・ 場面の变化や情景を表している叙述を基にして、想像しながら読んでいる。 ・ 文章を読んでまとめた自分の感じ方や考えと、他の人との感じ方や考えとは違いがあることに気付いている。 ・ 自分の目的や必要に応じて、大きな内容をまとめたり、必要となる細部に注意したりしながら読んでいる。 ・ 相手や目的に応じ、内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 ・ 地名や人名などの固有名詞を含めた日常目にする程度の簡単なローマ字を読んでいる。(4年) ・ 語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。 ・ 国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。 ・ 文相互の関係や段落相互の関係を示す手がかりとしての指示語・接続語の役割を理解している。

【「C読むこと」の評価規準の具体例】

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書の量を増やし、分野を広げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の読書経験を生かし、読んだ内容に関連した物語や詩、説明文など読書 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。

<p>て読もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と感想について話し合うことなどを通し、感じ方や考えの違いに気付いて自分の読みを見つめ直そうとしている。 	<p>の範囲を広げて読んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落の要点を抜き出したり、小見出しを付けたりするなどして、段落相互の関係や文章の中心をとらえて読んでいる。 ・叙述に即して、場面と場面とのつながりや文脈における意味を読み取ったり、情景を想像したりしながら読んでいる。 ・読み取った内容について自分なりに感想や意見などをまとめている。 ・友達との交流において叙述を基に考えを深め合っている。 ・自分と他の人との感想や意見の違いに気付いている。 ・疑問に思ったことに基づいて調べたりまとめたりするとき、大切なところの細部に注意して細かく読んでいる。 ・文章の区切り目や大事な言葉を明瞭に声に出して表している。 ・内容の中心や場面の様子が相手にもよく伝わるように声に出して読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地名や人名などの固有名詞を含めた日常目にする程度の簡単なローマ字を読んでいる。(4年) ・様子を表す語句や主語になる語句などに注意し、語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。 ・国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、難語句や新出漢字など必要に応じて活用している。 ・文章全体における段落の役割を理解している。 ・指示語や接続語の役割を理解し、文と文との意味のつながりを考えている。
--	---	---

第5学年及び第6学年

1 学年目標

- (1) 目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。
- (2) 目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

2 第5学年及び第6学年の評価の観点の趣旨

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<p>国語に対する関心をもち、計画的に話し合ったり、適切に書いたり、幅広く読書したりしようとする。</p>	<p>目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話したり、相手の意図を考えながら聞いたりする。</p>	<p>目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章を書く。</p>	<p>目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読む。</p>	<p>音声、文字、語句、文や文章、言葉遣いなどの国語についての基礎的な事項について正確に理解している。書写では、文字の形、大きさ、配列、毛筆では、点画の筆使い、文字の組立て方、字配りなどを理解して文字を正しく書く。</p>

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1) 「A話すこと・聞くこと」

【学習指導要領の内容】

(1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

- ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。
- イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。
- ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。
 - ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

【「A 話すこと・聞くこと」の評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・話の組立てを工夫して話そうとしたり、話し手の意図を考えながら聞き取るうとするとともに計画的に話し合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話している。 ・話し手の意図を考えながら話の内容を聞いている。 ・自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語感，言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。 ・文や文章のいろいろな構成があることについて理解し，活用している。 ・日常よく使われる敬語の使い方に慣れている。 ・共通語と方言との違いを理解し，また，必要に応じて共通語で話している。

【「A 話すこと・聞くこと」の評価規準の具体例】

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の身近な問題を解決するために話そうとしている。 ・話し手の思いや願いを考え，組立てや言葉遣いから，話し手の意図をつかもうとしている。 ・グループや学級全体における共通理解や，問題解決に向けて計画的に話し合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意図を明確に伝えるために，結論を初めに述べる組立てで話している。 ・発表や報告の時に必要な資料を提示しながら説明している。 ・組立ての効果などについて理解し，相手が自分に伝えたいことは何か考えながら聞いている。 ・言葉遣いに注意して，事実と感想，意見の違いを区別しながら話を聞いている。 ・自分の立場や意図をはっきりさせ，簡単な討議の形式をとりながら話したり聞いたりしている。 ・結論がまとまるように，時間配分に注意したり，決まったことを確認したりしながら，話し合いを進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において使われる語句が適切かどうか考えながら話をしたり，聞いたりしている。 ・討論の時などに，目的や意図に応じた構成を活用して意見を言っている。 ・相手と自分の関係を意識しながら，敬語を日常的に使っている。 ・改まった公の場など，必要な場において共通語で話している。

(2) 「B 書くこと」

【学習指導要領の内容】

(1) 書くこと的能力を育てるため，次の事項について指導する。

- ア 目的や意図に応じて，自分の考えを効果的に書くこと。
- イ 全体を見通して，書く必要のある事柄を整理すること。
- ウ 自分の考えを明確に表現するため，文章全体の組立ての効果を考えること。
- エ 事象と感想，意見などを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。
- オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。
 - ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

【「B 書くこと」の評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて，書く必要のある事柄を整理した 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて，自分の考えを効果的に書いている。 ・全体を見通して，書く必要のある事柄 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている

<p>り、文章全体の組立てを工夫したりして、効果的に書こうとしている。</p>	<p>を整理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えている。 ・事象と感想、意見などを区別して書いている。 ・目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりしている。 ・表現の効果などについて確かめたり工夫したりしている。 	<p>漢字を漸次書いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。 ・表現するために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けている。 ・文や文章にはいろいろな構成があることについて理解し、活用している。 ・日常よく使われている敬語の使い方に慣れている。 ・文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書いている。 ・毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方を理解しながら、文字の形を整えて書いている。 ・毛筆を使用して、字配りよく書いている。
---	--	--

【「B 書くこと」の評価規準の具体例】

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図を踏まえた上で、意見文や紹介文など、効果的な文章の種類や形態を選択して書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを主張するために相手を説得できるよう工夫するなど、何のために、どのようなことを、どのように書くのか考えて書いている。 ・意見を友達や下級生に伝える際、自分の考えたことなどが客観的な事象に裏付けられるように、文章全体を見通して書く事柄を整理している。 ・自分の考えた事などが効果的に伝わるように、根拠となる事柄などを適切に配置している。 ・書き出しに読み手の関心を喚起する事例を配置したり、一番印象深い事柄から書き出したりするなど、構成を工夫している。 ・事象と感想や意見との関係をとらえて書いている。 ・地域の人々に学習した事を紹介する目的や意図に応じて、詳しく書いたり、簡単に書いたり、効果を考えながら書いている。 ・礼状や依頼状などを書く目的や意図に応じて、効果的な表現となっているかを確かめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。 ・例えば、「収める」「納める」「修める」のうちどれを使うかなど、文脈に沿って判断し、漢字を適切に使っている。 ・語句の構成などに注意して仮名遣いを正しく表記している。 ・必要なときにはいつでも辞書を活用して調べる習慣を身に付けている。 ・自分の考えを明確に表現するためのさまざまな段落の組立て方を理解し、文章を書く際に目的や意図に応じて活用している。 ・相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れている。 ・文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書いている。 ・毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方を理解しながら、文字の形を整えて書いている。 ・毛筆を使用して、字配りよく書いている。

(3) 「C 読むこと」

【学習指導要領の内容】

(1) 読むこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

- ア 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。
- イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。
- ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。
- エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしなが
ら読むこと。
- オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。
 - ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

【「C 読むこと」の評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じた読書を通して、考えを広げたり深めたり、優れた叙述を味わったりするとともに、効果的な読み方を工夫しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを広げたり深めたりするために、主体的な立場で図書資料を選んで読んでいる。 ・ 目的や意図に応じて、文章の内容を短く要約したり伸ばしたりして、要旨をとらえて読んでいる。 ・ 叙述に基づいて、登場人物の心情や性格、考え方などを多面的にとらえ、情景などの表現に着目して読んでいる。 ・ 事象と感想・意見の関係を押さえ、それらについての自分の考えを明らかにしている。 ・ 自分に必要な情報を得るために学校図書館を利用するなどして、効果的な読み方をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 ・ 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。 ・ 語句に関する類別や構成、変化などについて理解し、語句の由来などに関心をもっている。 ・ 理解したりするための語句について、辞書を利用して調べている。 ・ 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。 ・ 易しい文語調の文章を音読し、文語の調子に親しんでいる。 ・ 文章にはいろいろな構成があることについて理解している。

【「C 読むこと」の評価規準の具体例】

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館などを利用し、楽しむために読む、調べるために読む、などの様々な目的に応じて読もうとしている。 ・ 文章の内容を的確に把握したり、論理などを押さえたりしながら読み、自分の考えを表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の課題を解決するために、必要な図書の種類を考えたり、図書の利用の仕方を考えたりしながら、図書資料を選んで読んでいる。 ・ 文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりしたことを、読書発表会に生かしている。 ・ 文章構成や文末表現などを手がかりとして筆者の主張を読み取っている。 ・ 目的によって短い文に要約したり、説明するためにある程度長くまとめたりしている。 ・ 登場人物について心情や性格、考え方などを多面的にとらえて人物像をまとめている。 ・ 情景描写などの表現に着目して読み味わっている。 ・ 筆者の意見や感想をとらえ、自分の立場からそれらの意見についてどのように考えるか意識して読んでいる。 ・ 必要な本を十進分類法で探したり、目的に応じて、速読や比べ読みなどを適宜用いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 ・ 表音文字と表意文字の違いなど仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。 ・ 語句に関する類別や構成、変化、由来などについて自ら調べている。 ・ 重要語句を調べるために辞書を使って調べる習慣が付いている。 ・ 俳句や短歌などを自ら音読し、言葉のリズムや響きを感じ取っている。 ・ はじめ・中・おわりといった展開の仕方を理解している。 ・ 意見と事実との書き分け方、順序に沿った述べ方など、文章の形態によって構成の仕方が変わっていくことを理解している。

第3 単元の評価に関する事例

ここでは、第5学年の「書くこと」を中心に、「読むこと」を統合した領域の事例を取り上げて紹介する。単元の観点別評価の総括は、様々考えられるが、本事例では、学習活動における具体的評価規準に軽重を付けて集約する方法によっている。

単元名 「わたしたちの環境保護作戦」(10時間)(第5学年 11月)

1 単元について

児童は、前単元で「自分たちの地域の紹介文を書こう」という学習を経験している。地域について来訪者に紹介し、そのよさを知ってもらおうという目的や意図をもって文章を書く学習を行った。読み手に自分の考えを効果的に伝えるためには、どんな材料を収集すればよいかを考える学習を通し、目的や意図を意識しながら書く必要のある事柄を整理する力を付け始めている。一方で、社会科や総合的な学習の時間の学習を通して、自然環境の保護についての意識が高まっており、題材に対する関心の高さとともに、自分の思いを多くの人に伝えたいという意欲が高まっている。そこで、身のまわりの環境保護について調べ、意見文にまとめる単元「わたしたちの環境保護作戦 - 身のまわりの環境を守るためのリサイクルについて調べ、意見文にまとめよう - 」を設定したい。発表する相手を4年生に決め、書く目的や意図をより明確に意識した学習を行い、自分の考えをまとめる意欲を高めたい。

本単元は、言語活動例から見ると、第5学年及び第6学年の「B書くこと」の「自分の課題について調べてまとめた文章に表すこと」を具体化したものとなっている。指導内容は、自分の考えを明確に表すための文章の組立ての効果を考えたり(書くこと ウ)、事象と意見とを区別して書いたり(書くこと エ)する能力の育成に重点を置いている。また、本単元は、目的を持って文章を読むことができるようにするねらいもある。自分の考えを深めるために必要な図書資料を選んだり(読むこと ア)、単元の指導過程に必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫する(読むこと オ)学習指導を位置付け、指導の効果を高めたい。

前単元の学習状況の評価結果として、目的や意図を意識して材料の収集・整理を行うことについてはおおむね満足できる状況に達した児童が多かったものの、文章全体の中で整理した情報を生かすまでには至らなかったことがあげられる。これは、集めた材料が多岐にわたるものであったためであると考えられる。本単元においては、環境保護というテーマの中でもリサイクルに視点を絞り、情報を収集したり、効果的な表現を工夫しやすくしたい。そのことによって、4年生及び同級生からの自己評価や相互評価活動の効果も高められると考えた。

2 単元の指導目標

- (1) 自分の問題意識を生かして目的や意図を意識した学習の課題をまとめたり、自分の考えをまとめて意欲的に発表することができる。
- (2) 自分の考えが明確に伝わるように、文章の組立ての効果を考えたり、意見とそれを支える事象との関係を押さえて書いたりすることができる。
- (3) 学校図書館や公共図書館などを利用して、必要な情報を得るために図書資料を探したり、工夫して読んだりすることができる。
- (4) 自分の文章に生かすために、文章の構成の工夫について理解することができる。

3 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 書く能力	ウ 読む能力	エ 言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験や問題意識を課題にまとめようとしたり、伝えたい考えを明確にするために、図書資料の読み方や、意見文の書き方を工夫しようとしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを明確に伝えるために、文章の組立て方の効果について具体的に考えている。 ・意見とその根拠となる事例の関わりが明確になる書き表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報が何かを明確にして、多くの図書資料を選んで読んでいる。 ・十進分類表や索引を活用したり、中心語句に気を付けて要旨をとらえたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料などを読み、自分の考えを明確にするための様々な文章構成の工夫について理解している。

なお、単元の評価規準の設定の際に参考とした「内容のまとめりごとの評価規準」は次のようである。
【「B 書くこと」の評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて、書く必要のある事柄を整理したり、文章全体の組立てを工夫したりして、効果的に書くようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書いている。 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理している。 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えている。 事象と感想、意見などを区別して書いている。 目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりしている。 表現の効果などについて確かめたり工夫したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書いている。 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。 表現するために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けている。 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解し、活用している。 日常よく使われている敬語の使い方に慣れている。 文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書いている。 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方を理解しながら、文字の形を整えて書いている。 毛筆を使用して、字配りよく書いている。

【「C 読むこと」の評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた読書を通して、考えを広げたり深めたり、優れた叙述を味わったりするとともに、効果的な読み方を工夫しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを広げたり深めたりするために、主体的な立場で図書資料を選んで読んでいる。 目的や意図に応じて、文章の内容を短く要約したり伸ばしたりして、要旨をとらえて読んでいる。 叙述に基づいて、登場人物の心情や性格、考え方などを多面的にとらえ、情景などの表現に着目して読んでいる。 事象と感想・意見の関係を押さえ、それらについての自分の考えを明らかにしている。 自分に必要な情報を得るために学校図書館を利用するなどして、効果的な読み方をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。 語句に関する類別や構成、変化などについて理解し、語句の由来などに関心をもっている。 理解したりするための語句について、辞書を利用して調べている。 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。 易しい文語調の文章を音読し、文語の調子に親しんでいる。 文章にはいろいろな構成があることについて理解している。

4 指導と評価の計画（全10時間）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的 評価規準と評価方法
一	1 2	身近な環境の問題について、学習したことをノートや資料などを手がかりに話し合っまとめる。 地球環境とその保護について、ビデオを視聴したり、	身近な環境問題にも地球規模の大きな課題が関連していることに気づかせるようにする。	ア-1 既習事項を生かし、書く相手や目的を明確にして課題をまとめたり、学習計画を立てようとしていたりしている。 〔課題設定時の発言及び学習のめあての記述内容の把握〕

		<p>文章を読み、どんな解決法が取られているか整理する。</p> <p>身のまわりの環境を守るためのリサイクルについて調べ、意見文にまとめ、4年生に発表するという学習課題「わたしたちの環境保護作戦」を設定し、学習計画を協議する。</p>	<p>図書資料は、学級文庫と学校図書館の両方を活用するように意識させる。</p> <p>相手を具体的に設定する重要性を感じ取らせ、4年生に向けて書いたり、発表する相手意識を膨らませるようにする。</p>	<p>〔学習計画表の記述の把握〕</p> <p>ウ - 1 どのような資料で学習したかを整理しようとしている。</p> <p>〔学習ノートの記述の把握〕</p>
二	3 4	<p>十進分類表、目次、索引等を活用した情報を集めるための方法や効果的な読み方について話し合う。</p> <p>資料を集めながら、テーマをより具体的に絞り込む。</p> <p>資料を整理し、中心語句や文章構成、文末表現に気を付けて引用する箇所を決めたり、要旨をまとめる。</p>	<p>児童の情報収集活動の経験や実態に合わせて、情報検索手段を紹介したり、選択するようにさせる。</p> <p>付箋や傍線などを活用し、資料のどこが必要な部分かを明確にできるように配慮する。</p> <p>実態に応じて活用する資料の多少を考えるように工夫させる。</p>	<p>ア - 2 自分の考えを深めるために、情報収集の方法を考えようとしている。</p> <p>〔情報収集手段についての発言〕</p> <p>ウ - 2 必要な情報を集めるために、十進分類表、目次、索引等を活用している。</p> <p>〔児童の情報収集活動の観察〕</p> <p>ウ - 3 中心語句などに気を付けて文章の要旨を読み取っている。</p> <p>〔取材メモや資料本文との関連の分析〕</p>
三	5 8	<p>書く必要のある事柄を整理し、効果的な構成の工夫について話し合う。</p> <p>読み手を引きつける書き出しや、説得性のある具体例を用いるなど、構成を考える。</p> <p>自分の考えとそれを支える事例との関係が明確になるよう接続語や文末表現に気を付けて書く。</p> <p>4年生の聞き手に分かるように意見文を書き直す。</p>	<p>前時までに集めた資料をもとに構成の工夫をとらえられるようにしたり、自分の考えを明確に表現しているかチェックさせる。</p> <p>考えを明確に伝える構成を工夫することを意識できるよう組立てメモの形式を工夫する。</p> <p>児童の実態に合わせて、接続語や文末表現の種類のいくつかを表にまとめて気づきやすいようにする。</p> <p>4年生の聞き手が興味を持つような話し方ができるように発表の特質を意識させるようにする。</p> <p>取材・構成・記述のそれぞれに自己評価・相互評価活動を位置付け、振り返る習慣を付けさせるようにする。</p>	<p>エ - 1 図書資料から、効果的な文章構成の工夫を見付けている。</p> <p>〔資料の写し等への記入内容把握〕</p> <p>〔構成の工夫への発言の観察〕</p> <p>イ - 1 自分の考えを効果的に伝えるために、読み手を意識した構成を工夫している。</p> <p>〔組立てメモの内容分析〕</p> <p>〔構成の相互評価活動の観察〕</p> <p>イ - 2 考えと根拠となる事例との関係を明確にしている。</p> <p>〔文章の記述内容の分析〕</p> <p>〔記述の過程の観察〕</p> <p>イ - 3 書いた文章を読み返して、その効果を確かめている。</p> <p>〔文章の記述内容の分析〕</p> <p>〔記述の過程の観察〕</p> <p>ア - 3 相手を意識した書き方の工夫をしようとしている。</p> <p>〔記述の過程の観察〕</p>
四	9 10	<p>4年生を招待し、意見文発表会を行うとともに、感想を交流する。</p> <p>交流を中心に学習を振り返って自己評価し、身につけたことや今後の学習の課題を明確にする。</p>	<p>4年生の感想と自己評価とが違った視点になっていることに気づかせるようにする。</p> <p>自分の考えをまとめたり、追求することが学習全体で続けられたか、振り返られるようにする。</p>	<p>イ - 4 4年生の反応をもとに、自分の考えが伝わったか、書き方について自己評価している。</p> <p>〔発表の様子や視線の観察〕</p> <p>ア - 4 学習の成果や課題を整理しようとしている。</p> <p>〔発表会の観察〕</p> <p>〔自己評価カードの内容分析〕</p>

指導過程のそれぞれにおいて努力を要する児童が見られる場合には、指導上の留意点を生かしながら、

各单位時間において学習指導を丁寧に進めるように配慮すること。

5 観点別評価の進め方

(1) 十分満足できる状況と判断した児童の状況例

評価の観点	十分満足できる状況と判断した児童の状況例	
ア 国語への関心・意欲・態度	ア-1 ア-4	・前単元の学習の成果と課題を意識しながら、書く相手や目的を明確にしようとしている。
	ア-2	・必要な情報を得るといった目的をもって、進んで図書資料を読もうとしている。
	ア-3	・読み手や聞き手の考えの違いに応じて、自分の考えが伝わるように工夫して書こうとしている。
イ 書く能力	イ-1 イ-3	・自分の考えを効果的に伝えるために、文章全体を見通して構成を考えている。
	イ-2	・自分の考えを根拠づけるため、読み手が納得できるような事例を工夫して書いている。
	イ-4	・自分や友達の書いた文章を読み返して、構成や叙述の効果を確かめ、さらに工夫したり、聞き手に分かるように意見文を書き直したりしている。
ウ 読む能力	ウ-2	・どんな情報が必要かを意識して、十進分類表、目次、索引等を活用して資料を検索している。
	ウ-3	・情報収集の目的を十分意識して、中心語句などに気を付けて文章の要旨を読み取っている。
エ 言語についての知識・理解・技能	エ-1	・図書資料から、自分の考えを明確にするためのさまざまな文章構成の工夫を見付けている。

(2) 本単元における観点別評価の総括

本単元の評価の重点

- ・年間指導計画に基づいて作成した年間の評価の見通しを示す「年間の単元評価重点一覧表」を作成する。
- ・「年間の単元評価重点一覧表」に基づいて、本単元の評価の重点を明確にする。

【各観点の評価の総括の際の留意点】

国語への関心・意欲・態度を評価する際には、単元の冒頭における子どもの姿だけでなく、学習を進める過程や終末時で見られる実現状況、次単元への期待や課題意識の高まりを重視する。
書く能力を評価する際には、完成した文章のみが評価の対象ではない点に留意する。
児童の「十分満足できる」状況や、個人内評価において特に伸びが顕著であるものについては、随時個別に記録・蓄積し、次単元以降の評価規準設定の材料や保護者等への評価結果の説明材料として活用する。

【第5学年 年間の単元評価重点一覧表】

月	観 点	国語への関心・意欲・態度			話す・聞く能力			書く能力					読む能力					言語についての知識・理解・技能							
		話す・聞く	書く	読む	話すこと	聞くこと	話し合うこと	相手・目的	取材	構成	事実と意見	簡単な推し	主体的な読	要旨の把握	人物の心情	情景描写	事実と意見	情報活用の	漢字の読み	漢字の書き	由来・特質	送り仮名	仮名遣い	文章構成の	

単元名			と	く	み	読	理
						み	解

11	ニュースを伝えよう																			
	環境保護作戦																			
	本の世界へ																			

* 1 表中の は、その単元で評価する事項、 はそのうち特に重点的に評価する事項を示す。

単元の観点別評価表の作成
「本単元の重点」を位置付けた下記のような表を作成し、個々の児童の評価結果を記録する。

【単元の観点別評価表】

評価の観点	ア国語への関心・意欲・態度			イ書く能力				ウ読む能力			エ言語についての知識・理解・技能	特記事項		
	1・4	2	3	1	2	3・4	1	2	3					
本単元の重点				総括				総括			・評価がAであるもののうち、特筆すべきもの ・個人内評価として顕著なもの			
学習活動における 具体的評価規準	1・4 相手や目的に 応じた成果や課題の把握	2 主体的な読み	3 自分の考えの効果的な書き方	1 文章構成の工夫	2 叙述の工夫	3・4 推敲・評価	1 情報活用の読み	2 要旨の把握	3 文章構成の理解					
児童名				括				括						
1	児童1	A	B	A	A	B	B	A	A	A		A	A	図書を有効に活用
2	児童2	B	B	B	B	A	B	B	B	B		B	B	記述能力顕著な伸び
3	児童3	B	A	B	B	C	C	B	B	B	A	A	表現のよさに着目	
4	児童4	B	A	A	A	B	A	B	B	C	B	C	C	伝え合うよさを実感

* 1 「学習活動における具体的評価規準」は【年間の単元評価重点一覧表】の 及び の事項を基に具体的に設定する。

- * 2 「本単元の重点」の欄には、【年間の単元評価重点一覧表】における 印を基に、本単元における評価の重点を で示す。
- * 3 「学習活動における具体の評価規準」から各事項の評価の結果を、それぞれの評価規準に対応させて集約し、「十分満足できる状況」 A ,「おおむね満足できる状況」 B ,「努力を要する状況」 Cとして記入する。

観点の評価への総括の原則

各観点においてAが半数以上であれば、観点の総括もAとする。また、各観点においてCが半数を超えていれば、観点の総括もCとする。その際、重点を明確にして総括を進めるために、「本単元の重点」がであるものは2倍にして集約する。AとCが同一観点内に混在する場合は相殺して集約する（A C B B）。

【個々の児童の評価例】

- 児童1 「書く能力」の観点の3つの事項は1つがA，2つがBとなっている。このうち本単元の重点である「文章構成の工夫」については，Aである。この評価を2倍するので，評価の集約はA A B Bとなり，半数がAになるので観点の総括もAとなる。
- 児童2 「書く能力」の観点の3つの事項は，1つがA，2つがBとなっている。しかし，本単元の重点である「文章構成の工夫」はBであるため，これを2倍にすると評価の集約はB B A Bとなり，観点の総括はBとなる。
- 児童3 「書く能力」の観点の3つの事項は，1つがB，2つがCとなっている。このうち本単元の重点である「文章構成の工夫」については，Bである。この評価を2倍にするので，評価の集約はB B C Cとなる。しかし，Cが半数を超えてはいないので観点の総括はBとなる。
- 児童4 「読む能力」の2事項のうち，1つがB，もう1つがCとなっている。本単元の重点である「情報活用の読み」がBであり，集約するとB B Cで，Cが半数を超えてはいないので，観点の総括はBとなる。

この外にも，単元における観点別評価の総括については，様々な考え方や方法があり，各学校において工夫することが望まれる。